

R プログラム コミュニケーション英語 I の授業の実況中継

入学おめでとう！いよいよ高校英語のはじまりです。

さっそくですが、以下に本校の授業のイメージをつかんでもらうため、実際の授業での「英文読解の解説」の部分のみ文字化してみました。夏休みまでは基礎固めで丁寧にゆっくり解説するつもりですので、高校の英語に早く慣れて下さいね。

1 日目

本校では授業で英語を正確に早く読めるようになるために3つの秘密の記号を使っています。この3つの記号を使いながら、授業では解説を行っていきます。3つの記号とは、○と□と[]の3つです。

① まず○です。述語動詞は○で囲みます。② 次に□です。連結詞（従位接続詞と関係詞）は□で囲みます。③ 最後3つ目は[]です。副詞句・前置詞＋名詞は[]で括ってカタマリとして読んでいきます。そして、なるべく記号を書くのと同時に、返り読みしないで頭から意味をとります。「構文解析」しながら頭から英語を英語の語順のまま読んでいく感じです。

では教科書 Lesson1 の英文で試しに記号をつけながら読んでみます。

[In 1969] Apollo 11 (landed) [on the moon]. Koichi Wakata (was) five

1969年に アポロ11号が 着陸した 月に 若田光一さんは 5歳だった。

years old. He (dreamed) [of becoming an astronaut]. [Twenty-seven

彼は 夢見た 宇宙飛行士になることを 27年後

years later], he (made) his first trip [into space].

彼は 最初の宇宙への旅行を行った

とこんな感じです。最初 In 1969 で前置詞句のカタマリが終わり、主語が Apollo 11 だと分かりますか？最初はこんなところで躓く生徒も意外に結構いますよ。[]を閉じるのがこれからは結構難しい場合がありますから注意です。また最後の made his first trip into space の部分ですが into space が前の名詞の trip を修飾しているということに気づくのが難しいかもしれませんね。[前置詞＋名詞]は今回のように名詞を修飾する形容詞句になるのか、副詞句になるのか、文脈で判断するしかなく、そこが難しいです。なんとなくしか読んでいないとなんとかの英語力しかつかないで難関大には届きません。注意が必要です。

さて、少し本校の授業を理解するためにも、文法用語を整理しましょう。

句：2語以上の単語で出来ている意味のカタマリ。

動詞句 前置詞句 形容詞句 副詞句 名詞句など。ただし前置詞句は、形としては「前置詞＋名詞」のカタマリのことですが、働きとしては、形容詞の働きをすれば形容詞句だし、副詞の働きをすれば副詞句となります。例えば The book on the desk isn't mine. の前置詞句である on

the desk は The book という名詞を修飾しているので形容詞句だし、I put the book on the desk の on the desk は副詞句です。

形容詞：名詞を修飾するもの（限定用法）、また名詞を説明するもの（叙述用法）。

He is a lonely man. (限定用法)

He is lonely. (叙述用法)

副詞：名詞を修飾する働き以外で、時、場所を表す言葉全て。また「ゆっくり」「丁寧に」など様態や「時々」「しばしば」など頻度を表すことば。「理由」を表すのも副詞です。中学で習った不定詞の副詞的用法はまさに「～するために（理由）」というものでしたよね。

また、基本的に動詞を修飾しますが、時に形容詞や他の副詞を修飾します。

very good の very も副詞だし、too loudly の too も副詞です。

1

① I (traveled) [into space] [three times]. ② [Each time] I (rediscovered) my

私は 旅行した 宇宙へ 3回 毎回 私は 再発見した

love [for the earth]. ③ The ISS (takes) 90 minutes [to fly around the earth].

愛を 地球への 国際宇宙ステーションは 90分かかる 地球を回るのに

④ [For 45 minutes] you (see) the day view, and then [in the next 45 minutes]

45分 あなたは見る 昼の景色を そして次の45分間

you (see) the night view. ⑤ It (is) very dark [at night]. ⑥ The stars (are

あなたは見る 夜の景色を とても暗い 夜は 星が輝いている

shining). ⑦ The Milky Way (stretches) [on and on]. ⑧ Our blue planet Earth

天の川は 広がっている どこまでも 私たちの青い地球は

(looks) [like an oasis [in the vastness of space]].

見える オアシスのように 広大な宇宙の

全く形の同じ into space が今度は①文目で副詞として使われていますよ。まあ今回は前に修飾したくても修飾するべき名詞がないので自明ですけどね。また、⑥文目の述語動詞の are shining のところは **2つで一つの述語動詞**なので○で囲みます。これ大切です。この「動詞句」をカタマリとして捉えることが結構後々で大切になってきます。また述語動詞を○で囲むことで、⑧文目の looks like の like が○でなく前置詞であることに気づけることになり誤読を防げるようになります。述語動詞を正確に掴むことが **高校の英文読解の第一の関門なんです**。それと③文目に take 時間 to 不定詞 (～するのに時間かかる) という部分がありますが、こういうのを高校では「**構文**」と言います。「構文」は自分でも使えるように

なるまで暗記が必要です。構文を含め、熟語など暗記すべき表現は、レッスン毎にまとめて単語のプリントと合わせてA4で2枚にして配りますので授業中に頑張って覚えましょう。(覚えきれないのであれば家庭学習するしかありません)。ちなみに⑤文目 it is dark の部分で主語が it になっていますが、明暗や寒暖を言うときの主語は It です。大丈夫ですか？中学で習ったはずですよ。

① You (can see) images of the earth [from space] [on TV and computers].

あなたは見る事ができる 地球の画像を 宇宙からの テレビやコンピューターで

② But those images (are) very different [from the real view of the earth [from

しかし それらの画像は とても違う 本当の地球の姿とは 宇宙からの

space]].③ You (can | clearly | see) the oceans, the clouds, the mountains, and

あなたは はっきりと見える 海や雲や山や川を

the rivers.④ You (can | even | identify) Japan [by its shape]. ⑤ I (feel) so

あなたは 特定さえできる 日本を その形で 私は感じる

lucky [to have a beautiful home planet].

とても幸運だと 美しいふるさとの惑星を持てて

①文目の from space は形容詞句で images of the earth を修飾していますよ。その一方で on TV and computers は副詞句です。「～の」という意味の of ぐらいい切らなくても大丈夫ですよ。別に[of the earth]としても良いですけど。助動詞+原形は一つの○です。ですので今回の③文目 can clearly see と④文目 can even identify の部分は非常に大切です。動詞句がカプセルのように2つに割れて間に clearly と even とがそれぞれ入っています。中学では not と never しか入らなかったかもしれませんが、この位置にいろんな副詞が入るんです。それでも左半丸と右半丸で動詞句を探せるかがポイントなんです。それと最後の⑤文目 to have ～の部分不定詞ですが不定詞も[]で括って下さい。不定詞もカタマリを作りますから。ところで不定詞が「理由」を表すのは今回のように感情表現の理由の時だけですのでご注意下さいね。

一回の授業で進むのはとりあえずセクション1つ。つまり今読んだ位の量です。大した時間がかからないと思いますので、是非「予習サブノート」に「記号づけ」を自分で試みて英文を正確に読む練習をしてください。「分かる・分からない」ではなくて「できる・できない」という技の伝授の部分ですので実際にやらないと差が付く一方です。ピアノや逆上がりの練習と同じです。頭で分かっても意味ありません。また、今回は口が出てきませんでした。英語を長くするのは口(連結詞)を含む文です。連結詞が単文と単文をつなげてどんどん文を長く複文にしていくのです。ちなみに[口+主語+(述語動詞)]のセットを節(せつ)と呼びます。これも一つの大きなカタマリと言えます。大きな[]で括る方が本当は良いかもしれませんが、当面、関係詞節のときだけはしておきます。「節」は超重要文法概念です。

例)

名詞節 I don't know 【who he is】 .

I didn't know 【that he used to be a teacher】 .

I don't know 【if he is married】 .

副詞節 We often talked with each other 【until we came to an agreement】 .

形容詞節

He is the man 【whom we were talking about yesterday】 .

This is a book 【which I want you to read】 .

関係代名詞節 (形容詞節・名詞節)

関係詞節は基本的に先行詞を限定する(修飾する)のですから形容詞節です。しかし名詞のカタマリをつくるものがあります。先行詞のなり関係代名詞です。そう what です。

【What you have to do now】 is study English. この文では主語になっているわけですから、当然、名詞節ということになります。文の主語になれるのは名詞だけです。

さて、授業ではこの後に、通して音読してもらい、次に英問英答をして理解の確認をします。その次に暗記すべき表現をペアになって暗記します。最後に口頭で今読んだ英文を隣の人に英語で伝える練習をします。最初は英語の暗記もなかなかできないし、再話活動もとても難しく感じるみたいですが、1年もやればなんとかなりますので頑張って参加して下さい！これ1人1人チェックできないところなので、真面目にやった人とやらない人で雲泥の差が付いちゃいます。気を付けて下さいね。それと**英文の記号づけは1年生の夏休みまでに自分でできるように必ずマスターして下さい**。多くの先輩たちは何も言わなくても週末に出る課題(週末課題)にも自分で記号をつけて精読する練習していましたよ。英語は1年生の時の取り組みが最後まですごく影響します。

2日目

さて、今日も記号を付けながら英文を読んでみましょう。でもその前に前回の復習をします。

ペアで前回の復習として再話活動を行います。まずは先生がやってみます。(ペア活動後)では一人に発表してもらいます。良くできました。先生より上手いね。参った。では本日の英文を読んで行きましょう。

2

[In 2009], I (went) [on my third mission [on the ISS]]. It (lasted) [137

2009年に

私は行った

ISSでの3度目のミッションに

それは続いた

days and 15 hours]. There (were) people [from different countries], so

137日と15時間

いた

色々な国々の人が

なので(その結果)

communication (was) very important. We often (talked) [with each other]

コミュニケーションは

とても重要だった

私たちはよく話した

お互いに

until we (came) [to an agreement].

意見が一致するまで

質問はありますか？ 皆さんは大学に行きたいのですよね。ならば**質問を作り出す力**がとても重要です。**疑問が作れないのでは、この先「研究」といえるようなことは何もできません**よ。大学に行く意味もないです。本読んでいけば十分です。授業で教師を質問攻めにするくりでないでダメだと思うのです。まあ、くだらない質問は自分で調べろと言うし、結構私も分からないこともあって次回までに調べるということも多々あると思いますが、私も勉強になるので是非積極的に質問してください。そういう気持ちで授業に臨めば、集中力も増すし理解も良くなると思います。

この英文なら、私が生徒ならまず「went on はなぜ went to ではないのか」「lasted 134 days は lasted for 134days じゃないのか」「talked with each other は with 必要か」など疑問に思うけどね。質問がなければ授業ではそのクラスは説明がないまま先に進めます。よく授業が終わった後に寄ってきて質問にくる生徒がいるけど、自分だけ良ければ良いのかって思っちゃいます (笑)。是非、授業中に手を挙げて質問して下さい。

Astronauts [from different countries] (ate) together [every day]. That

様々な国の宇宙飛行士が

一緒に食べる

毎日

それは

(gave) me the chance [to enjoy a variety of space foods]. Each of us (slept)

私に与えた

機会を

様々な宇宙食を楽しむ

私たちはそれぞれ

寝た

[in a room [about the size of a phone booth]]. But you (don't have to worry)

部屋で

電話ボックスサイズ位の

でも あなたは

心配する必要はない

[about hurting your back][in weightless conditions]. [As for communicating

背中を痛めることについて

無重力状態では

連絡をとるに関しては

[with our families]], we (could use) both e-mail and video.

家族と

私たちは 使えました

メールとビデオ両方を

2文目の gave は give AB と2つの語句が続き「AにBを与える」となります。このBの語句に今回はどんなBかを説明する形容詞句(不定詞の形容詞的用法)が続いています。「様々な宇宙食を楽しむ機会」ということです。このような「give 型動詞」を使った文型を **SVOO (第4文型)** といいます。「AにBを」と並ぶので中学のある先生は「**にを動詞**」と言って指導していました。3文目の a room の後ろも長めの形容詞句(前置詞句)が続いていますが、このように2語以上の修飾語は名詞を後ろから修飾することは是非覚えておいてください。**後置修飾** といいます。4文目の述語動詞は don't have to worry で一つの○です。このように大きなカタマリで英文をとらえるようになることが大切です。中学時代は特に時間をかけてこの動詞句のところを学んだはずですから、○で囲みながら再度うろ覚えのものがなく確認していきましょう。最後の文の as for ですがこれは2つで一つの前置詞です。こういうのを**群前置詞** といいます。「～に関して」という意味です。

Of course, there (were) some problems. [In space], you (cannot take) a

もちろん

いくつか問題もあります

宇宙では

あなたはお風呂に入れません

bath; you simply (wipe) your body [with towels]. Eating [without the help

単に体を拭きます

タオルで

重力の助けなしに食べることは

of gravity] (is) a problem. When you (eat) *senbei*, it (flies) everywhere.

問題でした

煎餅を食べると

それは飛びます あちこち

When you (eat) soup, you (have to use) a straw. But [all in all], I (found)

スープを飲む時は

あなたはストローを使わなくてはいけません

しかし 全体としては 私は思いました

life [in space] very comfortable.

s '

p'

宇宙での生活は

とても快適だと

2文目に ; (セミコロン) があります。これは「つまり」という意味でここは使われていますが、**必ず必要**です。文と文を接続詞なしでつなげることはできません。ピリオドで文を2文にする場合もありますが、それだと文と文がつながり悪い場合、このようにセミコロンを付けるか、and とか so とか接続詞を使います。単にカンマでつなげてはダメということです。**原則として○が2つあったら、□が一つ必要**ということです。最後の文は I (found) life in space very comfortable. 第4文型と同様に述語動詞の後ろに2つの語句が並んでいます。しかし find は「にを動詞」ではありません。これは**第5文型 (SVOC)**と呼ばれ、**O と C の部分が「主・述」関係になっています**。つまり「宇宙での生活は・とても快適である」主語と述語の関係になっています。この関係を**ネクサス (Nexus)**と呼ぶのですが、今後授業ではこのネクサスが出たら **s' と p'**と英文に書き込みますので、その都度「主・述関係」を確認して下さい。ちなみに第5文型の時の find は「見つける」よりも「思う」と訳した方が日本語らしくなる場合が多いです。以上です。質問はありますか？では今日も、音読して、英問英答と暗記を済ましてから、再話活動をしていきますね。

一応先ほど挙げた疑問について

「went on はなぜ went to ではないのか」

go to の後ろには、場所や建物が来ます。go on の後ろには、「一連の予定や計画」を表すような名詞がきます。a trip, a picnic, a tour やそして a diet いずれも「一連の予定や計画」です。

「lasted 134 days は lasted for 134days じゃないのか」

「特定の期間」が続く場合は、for はあっても大丈夫ですが省略する方がむしろ普通のようなようです。

「talked with each other は with 必要か」
each other は代名詞です。him や them の仲間です。

3 日目

さて、授業の最初にウォームアップで音読している新出単語（**レムズ：各課ごと新出単語をまとめたプリントの通称**）は覚えられましたか？基本的に授業で各課が終わるまでにその課の新出単語は覚えないとダメです。各レッスンの本文が終わったら、文法のおさらいを1コマ使って行って、それが終わると（なぜか「節末テスト」と呼んでいる）レッスン毎のテストを行います。成績にも入ります。数学科がそう呼んでいるので「課末」でなく英語科も「節末テスト」と読んでいるみたいです。それでは今日も前のセクションの復習から。ペアでの再話活動からです。（ペア活動）では一人に披露してもらいますね。ありがとうございます。すごく上手。I am proud of you! では最後のセクションを読んで行きましょう。

3

We (were) very busy [with scientific experiments]. However, we also

私たちはとても忙しかった

科学実験で

しかしながら 私たちは

(had) time [for some educational experiments]. I (tried) arm wrestling

時間もあつた

いくつかの教育的実験のための

私は腕相撲を試みた

[with a Canadian astronaut]. [To our surprise], both our bodies

カナダの宇宙飛行士と

驚いたことに

我々両方の体が

(started) [to spin around]. [In another experiment], I (tried) calligraphy.

まわり始めた

別の実験では

私は習字を試みた

I (used) too much ink, but it (didn't drip). My favorite experiment (was)

私は沢山過ぎるインクを使った

しかしそれは垂れなかった

私のお気に入りの実験は

the “magic carpet.” I (put) tape [on my feet][to stick to a carpet]. It

「魔法の絨毯」だった

私はテープをつけた

足に

カーペットにくっつくために

それは

(worked) [like magic]: I (was flying) in space!

上手くいった

魔法のように

私は空中を飛んでいた

I put tape on my feet to stick to a carpet.の文ですが、まず put という単語は「置く」が基本ですが日本語に訳すときは色んな意味にできます。また必ず後ろに「場所」を表す語句を伴います。今回は「テープを足に置く」から「くっつけた」になります。もし後ろに「into～」があれば「入れる」となったりします。to stick to a carpet は不定詞の「副詞的用法」で「～するために」という意味でよいと思います。to は基本的に→だと思って読んでいけば、そんなに間違った意味にとることはないと思いますので、「～的用法」という言葉にあまり神経質になる必要はありません。でもあとで文法書見ておきましょうね。

さあ、質問はありませんか？ 残念。じゃあ私から質問。最後の：(コロソ) 見て下さい。前回のセミコロソ；と少し違いますよ。まあ、何でも簡単に知っちゃうと人生つまらなくなっちゃうので、興味があれば自分で調べておいてください。もう既に調べた人いますか？素晴らしい！じゃあ、調べても分からなかった人は彼に後で聞いて下さい。

One final word. Going into space (is) a frightening experience. There

最後に一言

宇宙に行くことは

恐ろしい経験です

(are) many dangers. So why (do) I (go) [into space]? I (do) it because it (is)

危険も多い

ではなぜ私は宇宙に行くのか

私はします

なぜならそれは

a challenge and because it (is) important [for humanity]. Astronauts

挑戦だからです

そしてそれは重要だからです

人類にとって

宇宙飛行士は

[from around the world] (are working) together. [Through this experience],

世界中からの

共に働いている

この経験を通して

I (came to believe) [in our common humanity] [as citizens of the earth].

私は信じるようになった

共通の人間性を

地球の市民として

(Remember) that each one of us (is) a crew member [of Spaceship Earth].

覚えておいて下さい

我々一人ひとりが

乗組員なのです

宇宙船地球号の

「危険も多い」が英語では「たくさんの危険がある」のようになります。「多い」「少ない」は英語にするときに結構困る日本語です。humanity は日本語にするとき人間なのか人間愛・人間性なのか困りますよね。辞書を引くべき単語です。come to do は「(だんだん) ~するようになる」という意味になります。become じゃないのって？マークが頭に浮かびませんでしたか？なかなか良い感じですが。become to believe はダメなんですか？疑問はこうやって生まれるのです。答えは自分で探して下さい。結構有名な疑問なのですぐ見つかるはずですが。それと疑問文の記号づけを確認して下さい。英語の疑問文の形は全て同じなんです。(be 動詞以外) 動詞の部分がカプセル型で2つに割れて、間に主語が来ます。(| 主語 |) です。おそらく英語表現 I の方の授業で確認したばかりじゃないですか？

さあ以上で本文は終了です。科学実験楽しそうですね。次回は時間が余ると思うので、科学実験の様子を動画で見てください。お楽しみに。また、最後の段落は皆さんへのメッセージですよ。最近の教科書はただ読んで訳すというのでは、もったいない内容のものばかりですね。自分の意見を持つということがこれからはすごく大切だし。簡単でも良いので毎回レッスンを通して思ったことを書き留めておいて下さい。日本語でも良いけど、出来れば英文で。皆さんの中からも将来の宇宙飛行士が出るかもしれないしね。筑波大学にも募集の紙が貼ってありましたよ。それに宇宙飛行士でなくても 50 年後は民間宇宙旅行ももっと手に届くような時代になっているかもしれませんね。羨ましい限りです。

さあ、では今日も音読と英問英答と暗記と再話活動と一気にいきますね。頑張ってください。

...

お疲れ様。今回は文法の復習、その次が「課末テスト」です。しっかり覚えることは覚えてもらいます。不思議と英語覚えるのって訓練で上達します。毎回真面目にやっている生徒は1年後は英語覚えるのが早く苦じゃなくやっています。逆に毎回テキトウやっている生徒は残念な感じですが、どっちがいいですか？1年後の自分をお楽しみに。ところで単語テストの勉強はちゃんとやっていますか？配布されてる『百式英単語』です。毎日10分音読するだけ。書かれている通りやれば絶対覚えられます。この**1年次の単語の暗記が筑波大以上の難関大合格には本当に鍵**です。本当です。2年生では遅いんです。後悔するのが嫌なら、**毎日10分の習慣化**を必ず行って下さい。たったの10分ですよ。スクワットしながらでもできます。そもそもたった10分毎日やれない人が、何かしらの夢を叶えることができるなんて思いませんか？前日の一夜漬けは全く単語の暗記には意味がありません。すぐ忘れてしまいます。毎日同じ50個を1週間10分音読です。目指せ「単語王」！

最後に、今回の英文解釈する際に3つの記号を使う大発明をしたのは、私ではありません。寺島隆吉先生という、岐阜大の教授だった先生です。今後、もし英語を教えることに興味があれば、自分で読んでみたいなんて人がいたら、以下の2つの本をまずは、どうぞ。

『英語にとって学力とは何か』（1986, 三友社）

『寺島メソッド 英語アクティブラーニング』（2016, 明石書店）